

PCS-550-50

50MHz 50W FM TRANSCEIVER

PCS-550-28

28MHz 50W FM TRANSCEIVER

取扱説明書

ご使用になる前に、この取扱説明書と「安全上のご注意」を必ずお読み下さい。この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。アマチュア無線以外の通信には使用できません。
ホームページから取扱説明書のダウンロード [<http://www.azden.co.jp/50thannivers/manual/>]



目 次

■ 安全上のご注意	2	■ テンポラリーメモリー	16
■ 本機の特長	5	■ スキャン	16
■ 定格	7	■ プライオリティー	17
■ 各部の名称と機能	8	■ リバース	17
■ 受信	10	■ バックアップバッテリー	17
■ 初期設定	10	■ アフターサービス	18
■ メモリーチャンネルの使い方	13	■ 無線局申請書(工事設計書)記入事項	18
■ トーンコード表	14	■ 送信機系統図	19
■ 送信	15		

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています

警告 この表示の欄は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

(下記は、絵表示の一例です。)

注意喚起 この様な絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

禁止 この様な絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

強制 この様な絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

・正しく安全にお使いいただくため、ご使用まえに必ず本書と、取扱説明書をよくお読みください。

警告 交通事故の発生を防ぐため、必ず以下の事項をお守りください

! 無線機は、運転の視野を妨げない場所に取り付けてください。

! 無線機は、運転の妨げにならない場所に確実に取り付けてください。

! 無線機取り付け終了後に、車のブレーキランプ、ヘッドランプ、ウinker、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。正常に動作しない場合は、正常に動作するように取り付けをやり直してください。

! 運転者が以下のような行為をするときは、必ず、安全な場所に車を停車させてから行なってください。

- ・周波数を変えるなどのスイッチ操作をする時
- ・音量調節など調節操作をする時

! 運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご使用ください。

以下のような異常が起こった場合は、ただちに使用を中止し、購入店、アツデン営業部へご相談ください。そのまま使用すると、火災その他の事故の原因となります。

- ・音が出ない
- ・異物が入った
- ・水がかかった
- ・煙が出る
- ・変な匂いがする

修理は必ず購入店、アツデン営業部にご依頼ください。
お客様による修理は、火災その他の事故の原因となります。

警告 設置について

! 放熱を妨げない
・内部に熱がこもると、火災の原因になります。
・壁から離し、風通しのよいところに設置してください。

! 必ず、バッテリーのマイナス端子を外してから取付、配線を行なってください。ショート事故により、火災が起こるおそれがあります。

! 電源コード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にお止めください。ショート事故や電流容量オーバーとなり、火災の原因となります。

! 配線は必ず取扱説明書に記載してある通りに行なってください。配線を間違えますと、火災、その他の事故の原因となります。

! 車両の板金部の近くを通るコードには、保護用テープを巻いてください。コードが切れるとショート事故により、火災となるおそれがあります。

! 12V マイナスアース以外の電源で使用しないでください。火災の原因となります。

! 車両電源配線用コード以外で延長しないでください。コードの被覆が壊れやすく、ショート・発熱事故による火災が起こるおそれがあります。また電流オーバーにより、火災が起こるおそれがあります。

! 車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類・タンク・電気配線などの位置を確認のうえ、これらと当たり接触することがないようにしてください。火災の原因となります。

! 製品取り付けの際には、必ず付属の取付用部品をご使用ください。取付用付属品をご使用しないと、製品内部を壊し、ショート事故による火災が起こるおそれがあります。また、取付不備により運転中に製品が外れて人に当るおそれがあります。

! ヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、必ずヒューズボックスに表示されている容量(アンペア)のヒューズと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用しますと、火災の原因となります。

⚠ 警告 雷について



雷が鳴ったら、アンテナ線や機器の金属部、プラグに触れない
・誘導雷により感電のおそれがあります。



雷が鳴ったら、屋外で使わない
・落雷のおそれがあります。
・使用しているときは、すぐに機器から離れてください。

⚠ 注意



無線機の使用中は、放熱器に触れないでください



不安定な場所に置かない
・機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。



機器の上に大きいものや重いものは載せない
・倒れたりして、けがの原因になることがあります。



異常に温度が高くなる所に置かない
・機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
・夏の閉め切った自動車、直射日光のあたるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。



機器の上にものを載せたまま移動させない
・倒れたり、落下して、けがの原因になることがあります。

本機の特長

このたびは、PCS-550-50、PCS-550-28をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。

■ 複数のレピーター対応ができます。

メモリーチャンネル(20+1 CH)すべて、送信、受信、送信トーン、受信スケルチの周波数を個別に設定できます。

■ 送受信

- ・ 周波数範囲は、PCS-550-50 50.000~53.995(受信 54.000)の間です。
PCS-550-28 28.000~29.695(受信 29.700)の間です。

- ・ 初期設定を前面キーの操作で行うことができます。

- ・ 初期設定の値は、変更することができます。

初期設定の種類	変 更 で き る 範 囲
トーンデコーダー	38波
トーンエンコーダー	38波
スキャンモード	ディレイスキャン 6 秒、ホールドスキャン 3 秒又は 6 秒
ステップ幅	5・10・15・20kHz
シフト幅	任意に周波数を設定可(送信周波数範囲内5kHz ステップ)
メモリー内容	任意に周波数を設定可(送受信周波数範囲内)

- ・ 送信出力は、HI(50W)とLOW(5W)の切り替えができます。
- ・ シフト方向が $\boxed{+}$ → $\boxed{-}$ → “シフト無し”の切り替えができます。
- ・ トーンの ON・OFF ができます。
- ・ 受信周波数と送信周波数を逆にすることができます。

■ メモリー

- ・メモリーはAバンク 10 チャンネルと、Bバンク 10 チャンネルの計 20 チャンネルあります。
- ・20 チャンネルのメモリーは各チャンネルごとに下記のデータをメモリーできます。

受信周波数
トーンデコーダー周波数
送信周波数
トーンエンコーダー周波数

トーンデコーダー : トーンスケルチの復調回路で、本機には内蔵してあります。

トーンエンコーダー : 送信変調に、トーンスケルチやレピーターを動作させるためのトーン信号を乗せる回路で、本機には内蔵してあります。

- ・メモリーAバンクの0チャンネルを、ワンタッチで呼び出すことができます。
- ・AバンクとBバンクの切り替えができます。
- ・テンポラリーメモリーの書き込み・呼び出しが簡単にできます。

■ スキャン

各種スキャン(自動的に受信チェックをし、次のチャンネルに移る動作)ができます。

- ・A・B各メモリーチャンネル8と9の間の周波数をスキャンするプログラマブルスキャン。
- ・メモリーチャンネル0～9の間をスキャンするメモリスキャン。
- ・メモリスキャンはAーB連続、A又はB単独スキャン。
- ・スキャンモードは、ディレイスキャンとホールドスキャンがあります。

■ プライオリティー

- ・どこの周波数を受信していても、約 4 秒に 1 回メモリーAバンク0チャンネル(MAO)の周波数の入感状態を監視することができます。

⚠ 注意

- ・本機の定格電圧は、直流 13.8Vです。誤って直流 24Vや交流 100V電源に接続しないよう注意して下さい。
- ・アンテナを接続するための同軸ケーブルは、50Ω系のものを使用してください。
- ・マイク端子には、直流 13.8Vやマイコンから直接配線されている端子がありますので、ショートさせないよう注意してください。

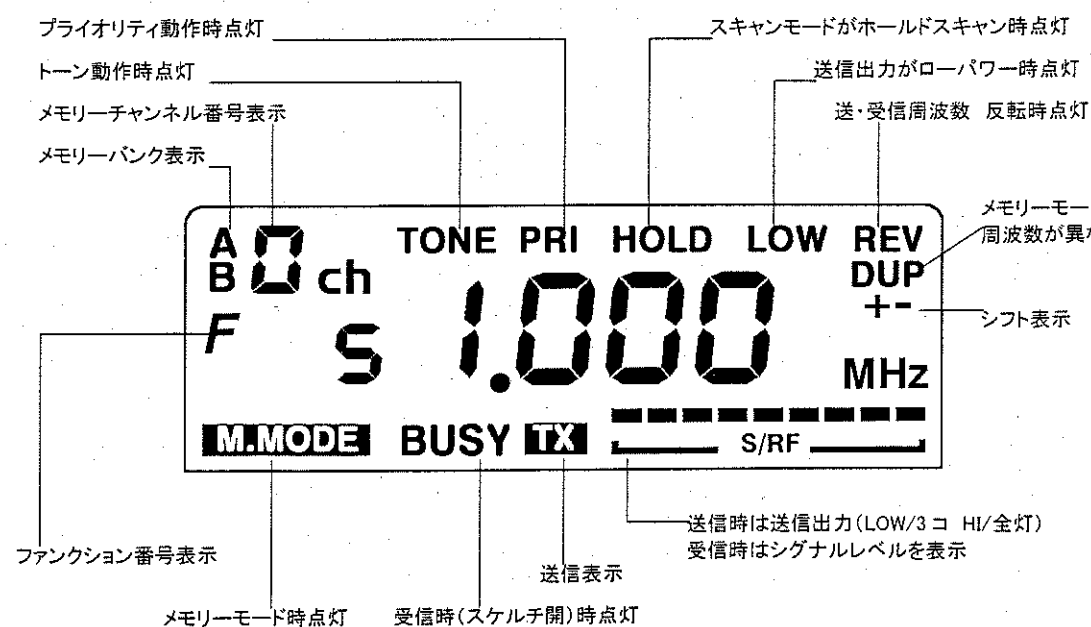
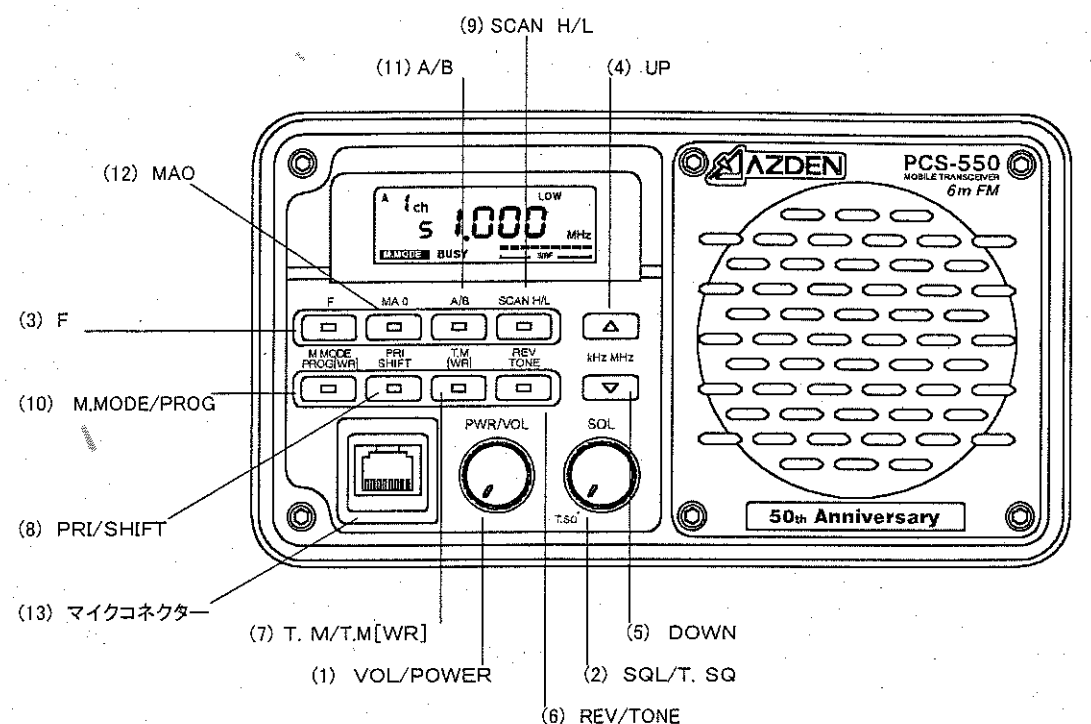
定格

機 種		PCS-550-50	PCS-550-28
一般仕様	周波数帯域	50.00～54.00MHz	28.00～29.70MHz
	使用温度	-10℃～+50℃	
	電源電圧	DC13.8V ±15%	
	接地極性	マイナス接地	
	消費電力 受信時	0.3A MAX	
送信部	送信時	10.0A MAX	
	送信出力 HI	50W	
		5W	
	変調方式	リアクタンス周波数変調	
	最大周波数偏移	±5kHz	±2.5kHz
	スプリアス	-60dB以下	
	空中線インピーダンス	50Ω	
	電波型式	F3	
	使用マイクロホン	600Ω ダイナミック型	
受信部	受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン	
	中間周波数	第1	16.9MHz
		第2	455kHz
	受信感度	0.16μV(12dB SINAD)以下 S/N=30dB の時の RF 入力1μV 以下	
	選択度	±6kHz 以上/-6dB	±3kHz 以上/-6dB
		±15kHz 以下/-50dB	±9kHz 以下/-50dB
寸法	低周波出力	2W 以上(8Ω 負荷 歪率 10%時)	
	寸法	100(H)×180(W)×90(D)	
	質量	1.4 kg	

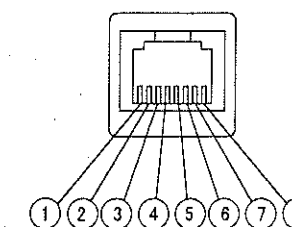
(技術開発に伴い、変更になることがあります)

付属品	多機能マイクロホン	1コ
	モービルブラケット	1コ
	ブラケット止めネジ	2コ
	ネジ・ワッシャー	1式
	マイクハンガー	1コ
	電源コード	1本

各部の名称と機能



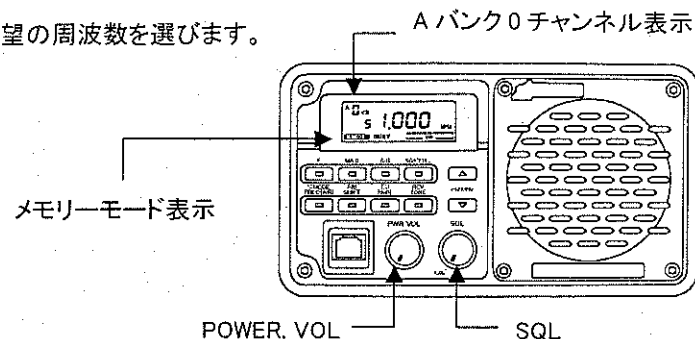
名 称	動 作	
(1) VOL/POWER ボリューム/電源スイッチ	プッシュすると電源が入り、時計方向に回すと音量が大きくなります。 もう一度プッシュすると電源OFFになります。	
(2) SQL/T. SQ スケルチ/トーンスケルチ スイッチ	時計方向に回すと、スケルチが深くかかり、受信していない時の雑音が消えます。 反時計方向に回しきると、トーンスケルチモードになります。	
(3) F ファンクションキー	押して“F”が表示中に④から⑫のキーを押すと、下表右側の動作をします。 他のキーが押されないと約3秒後に解除され、“F”表示は消えます。	
	“F”表示がない動作	Fキーを押したときの動作
(4) UP (5) DOWN アップ/ダウンキー	メモリーモード “M.MODE”表示があるとき メモリーチャンネル番号がアップ、ダウンします	ダイレクトモード “M.MODE”表示がないとき 周波数を 5kHz ステップでアップ、ダウンします (ステップはプログラムモードで 5—10—5—20kHz に変更できます)
(6) REV/TONE リバーズ/トーンキー	送信周波数と受信周波数を逆にします	トーンエンコーダのON/OFFをします。(プログラムモードで、トーン周波数を設定しておく必要があります)
(7) T. M/T.M[WR] テンポラリーメモリーキー	テンポラリーメモリー周波数を呼び出します。 再び押すと、元の周波数に戻ります	テンポラリーメモリーに表示中の周波数を書き込みます。
(8) PRI/SHIFT プライオリティシフトキー	プライオリティのON/OFFをします。	ダイレクトモードの時、送信周波数がシフトします。 シフト方向の切り替え、及びON/OFFをします。
(9) SCAN /H/L	スキャンを開始します。	送信出力の H/L を切り替えます。
(10) M.MODE/PROG[WR] メモリーモード/プログラム	メモリーモードとダイレクトモードを切り替えます	初期設定プログラムの変更及びメモリーチャンネルの書き込みを行います
(11) A/B	メモリーの A 又は B バンク切り替え、メモリースキャン時の A & B/A or B 切り替えをします。	
(12) MAO(CALL)	メモリーA バンク 0チャンネルのワンタッチを呼び出します。再び押すと元に戻ります。	
(13) マイクコネクター	* UP, DOWN, MAO (CALL) キーは PTT スイッチと共にマイクロホンにも付いています ①MIC GND ②PTT ③MIC ④GND ⑤MAO (CALL) ⑥13.8V ⑦UP ⑧DOWN	



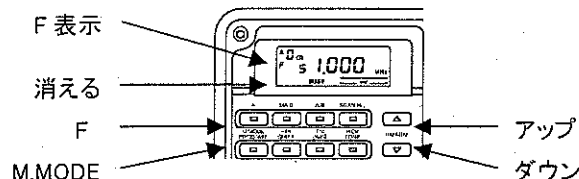
■ 受信

電源(13.8V)アンテナの接続が終わりましたら次の順序で操作して下さい。

- POWER スイッチを ON にしますと LCD ディスプレイ左下にメモリーモードである事を示す“M.MODE”の表示が出て A バンク0チャンネルの周波数が表示されますので、[M.MODE]キーを押してダイレクトモードにします。(M.MODE表示が消えます。POWER スイッチ ON の時は A バンク0チャンネルの周波数になります。)
- SQL ツマミを左(反時計方向)に回しておきます。この時、カチツと音がする所まで回しきると、トーンスケルチ ON となり、音は出ません。[T.SQ]表示位置より手前にしておきます。VOL ツマミを右に回すと雑音または交信中の音声聞こえてきますので、雑音が聞こえている場合は、SQL ツマミを右に回して雑音が聞こえなくなる位置に合わせます。
- [▲]または[▼]キーで希望の周波数を選びます。



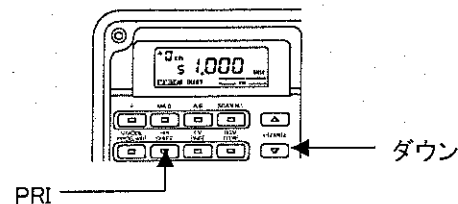
- [▲]または[▼]キーを押すと、表示の周波数がアップ・ダウンします。
 - [F]キーを押して、“F”表示点灯中に[▲]または[▼]キーを押すと表示の周波数が MHz 単位でアップダウンします。
 - [▲]または[▼]キーは押し続けると連続してアップまたはダウンします。
- ※ この時の受信周波数は、連続変化する直前及び停止後の表示周波数になります。



■ 初期設定

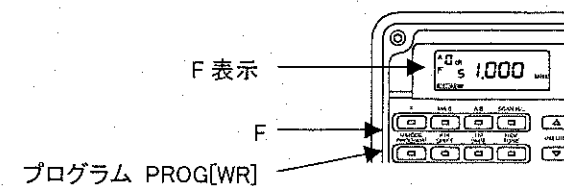
- [PRI]と[▼]キーを一緒に押しながら POWER スイッチを ON すると、全てのメモリーチャンネルの値が消去され、つぎの値の初期設定になります。

(A)トーンデコーダー	00...TONE なし
(B)トーンエンコーダー	00...TONE なし
(C)スキャンモード	00...6秒後スタート
(D)ステップ幅	. 5...5kHz ステップ
(E)シフト幅	. 5...500kHz シフト(PCS-550-50) . 1...100kHz シフト(PCS-550-28)
(F)メモリー内容	PCS-550-50 A0~A8,B0~B8 51.000MHz A9,B9 53.990MHz PCS-550-28 A0~A8,B0~B8 29.300MHz A9,B9 29.690MHz



- 初期設定を変更する場合は次の順序で操作して下さい。

- POWER スイッチを ON すると、“M.MODE”表示が点灯し A バンク0チャンネルの周波数が表示されるので、[F]キー[PROG[WR]]キーと押し、プログラムモードにします。



プログラムモードでは[▲]キーを押して行くと

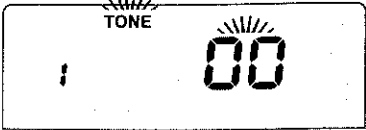
A0~A9 B0~B9の各メモリーチャンネル,	A8 ch S 1.000 MHz
“1”ダイレクトモードのトーンデコーダー周波数,	TONE 1 00
“2”ダイレクトモードのトーンエンコーダー周波数,	TONE 2 00 TX
“3”スキャンモード,	3 00
“4”UP, DOWN のステップ周波数,	4 . 5 MHz
“5”シフト幅,	S 500 MHz

次に再びメモリーチャンネルA0の順で各設定モードになります。

それぞれの設定モードでプログラムを書き込む時は、[PROG[WR]]キーを押して表示を点滅させ[▲][▼]キーで設定値にした後[PROG[WR]]キーを再び押すと書き込まれ、次の設定モードに移ります。

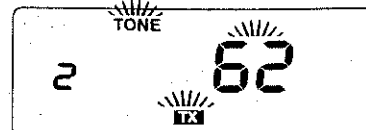
“1” [▼]キーを5回押すと“1”が表示され、トーンデコーダーの周波数書き込みモードになります。

[PROG[WR]]キーを押し、別表トーンコード表により、トーン周波数を[▲][▼]で選び、[PROG[WR]]キーを押し、書き込みます。



“2” トーンデコーダー周波数の書き込みが終了すると、つぎに“2”が表示されトーンエンコーダーの周波数書き込みモードになります。

例として、88.5Hz に設定する場合は、[PROG[WR]]を押した後別表のトーンコード表により[▲]キーで“62”を設定後[PROG[WR]]キーを押すと書き込まれ、次の“3”が表示され、スキャン書き込みモードになります。



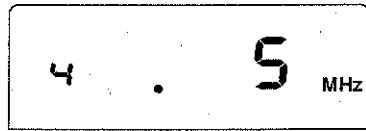
“3” スキャンは3種類のモードがあります。「■ スキャン・スキャンモードの種類」を参照下さい。

[PROG[WR]]キーを押すとディレイスキャン(6秒後スタート)の“00”が点滅し、次に[▲]キーで“3”が表示(3秒ホールド)さらに[▲]キーで“6”の表示(6秒ホールド)を繰り返すので、いずれかに決定後[PROG[WR]]キーを押します。つぎに“4”が表示され、ステップ幅の書き込みモードになります。



“4” 周波数設定のアップ、ダウン動作のステップを決めるモードです。

5kHz ステップになっていますので、変更する場合は[PROG[WR]]キーを押してから[▲]キーを押すと、“5→10→15→20”と順次変わりますのでいずれかに決定後[PROG[WR]]キーを押すと、つぎに“5”が表示されて、シフト幅の設定モードになります。



“5” シフト幅は、500kHz(PCS-550-50)又は、100kHz(PCS-550-28)になっています。

変更する場合は、[PROG[WR]]キーを押してから[▼]または[▲]キーで設定後[PROG[WR]]キーを押すと最初のメモリーAバンク0チャンネル周波数が表示され初期設定の変更は終了します



※設定が終了しましたら、必ず[PROG[WR]]キーを押してから POWER スイッチを OFF → ON して下さい。

■ メモリーチャンネルの使い方

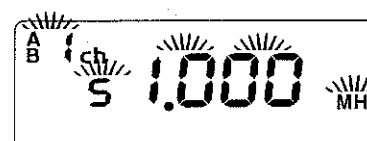
- メモリーチャンネルはAおよびBバンクごとに0～9チャンネルの系20チャンネルあって[A/B]キーによりA、BまたはA—Bバンク連続を切り替えることができます。
- 各メモリーチャンネルごとに下記の順でデータをメモリーする事ができます。

受信周波数
トーンデコーダー周波数
送信周波数
トーンエンコーダー周波数

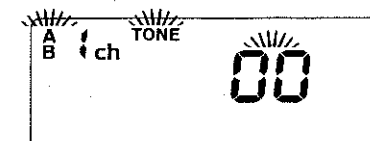
1. メモリーチャンネルの書き込み方

POWER スイッチを ON にして、[F][PROG[WR]]キーを押すと、プログラムモードになりメモリーチャンネル表示が点滅し、メモリー書き込みの準備ができた事を示します

- [▲]または[▼]キーで書き込むメモリーチャンネルを指定します。
 - もう一度[PROG[WR]]キーを押すと周波数表示が点滅して受信周波数書き込みモードになります。[▲][▼]キーで周波数を設定し[PROG[WR]]キーを押すと、受信周波数が書き込まれて、“TONE”および“00”が表示されトーンデコーダー(オプション)の書き込みモードになります。
- トーンスケルチを使う時は、[▼][▲]キーでトーンデコーダー周波数を別表トーンコード表により設定します。それ以外の時は“00”のままにしておきます。

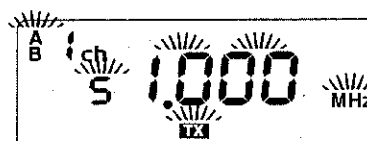


受信周波数
書き込みモード

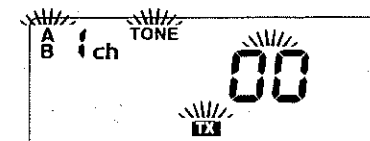


トーンデコーダー
書き込みモード

- つぎに[PROG[WR]]キーを押すと、周波数および“TX”が表示され送信周波数の書き込みモードになり、受信周波数と同じ周波数を表示します。送信周波数を[▲][▼]キーで設定後又は、受信周波数と同じ場合はそのまま、[PROG[WR]]キーを押しますと、メモリーされて、送信周波数が書き込まれ、“TONE”および“00”が表示されて、つぎのトーンエンコーダー書き込みモードになります。



送信周波数
書き込みモード



トーンエンコーダー
書き込みモード

- もし88.5Hz なら別表のトーンコード表により[▲]キーで“62”(オプションのトーンユニットが組み込まれていない時)を設定後、[PROG[WR]]キーを押すことによりメモリーの書き込みは終了し、次のメモリーチャンネルの書き込みモードに移ります。

※受信周波数および送信周波数の設定方法は、受信の頁の周波数のアップ・ダウンの項を参照して下さい。

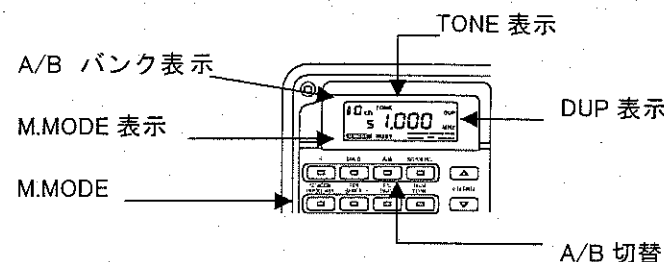
※設定が終了しましたら、必ず[PROG[WR]]キーを押してから、POWER スイッチを一旦、OFF して下さい。

2. メモリーチャンネルの呼出

- ・ダイレクトモードになっている場合は、[M.MODE]キーを押して M.MODE を表示して、メモリーモードにします。
- ・バンクは[A/B]キーを押すごとに[A/バンク]→[Bバンク]→[A-Bバンク]の順に変わります。
- ・A-Bバンクの時は、“A”“B”両方とも表示し、現在呼び出しているバンクが点滅しています。
- ・[▲]または[▼]キーで希望のメモリーチャンネルを呼び出します。キーを押し続けるとチャンネルが連続してアップまたはダウンします。

※ 受信周波数と送信周波数が違う設定がしてあるメモリーチャンネルの場合は、“DUP”表示をします。

※ トーンエンコーダーが設定してあるメモリーチャンネルは“TONE”表示をします。



メモリーチャンネルは、次のように初期設定してあります。

チャンネル	A0～A8、B0～B8	A9,B9
送受信周波数		
PCS-550-50	51.000MHz	53.900MHz
PCS-550-28	29.300MHz	29.690MHz
トーンデコーダー	00 (トーンなし)	00 (トーンなし)
トーンエンコーダー		

■ トーンコード表

コード	周波数	コード	周波数	コード	周波数
0	—	44	103.5 Hz	54	162.2 Hz
15	67.0 Hz	60	107.2	37	167.9
47	71.9	43	110.9	53	173.8
14	74.4	59	114.8	36	179.9
63	77.0	42	118.8	52	186.2
13	79.7	58	123.0	35	192.8
46	82.5	41	127.3	51	203.5
12	85.4	57	131.8	34	210.7
62	88.5	40	136.5	50	218.1
11	91.5	56	141.3	33	225.7
45	94.8	39	146.2	49	233.6
10	97.4	55	151.4	32	241.8
61	100.0	38	156.7	48	250.3

■ 送信

- ・送信する前に必ず SQL ツマミを T.SQ の手前まで左に回して、その周波数を受信して他局が運用していない事を充分確認して下さい。
- 送信周波数と受信周波数が異なる時(“DUP”又は“+”, “-”を表示している時)は“REV”キーで送受周波数を入れ替えて送信しようとする周波数を受信チェックして下さい。
- ・マイクロホンの PTT スイッチを押しますと、“TX”表示および“RF メーター”で点灯して送信状態になりますので、マイクロホンに向かって話して下さい。

H/L 切替

[F]キーを押して“F”表示が点灯中に[H/L]キーを押すと“LOW”表示が点灯して LOW パワー(5W)に切り替わります。繰り返すと HI パワー(50W)に変わります。

HI パワーの時の表示はありません。

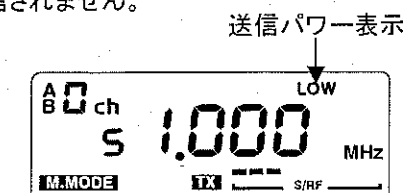
シフト切替

[F]キーを押して“F”表示中が点灯中に[SHIFT]キーを押すと[+]→[-]→“無表示”の順で変わり、送信周波数が受信周波数に対して初期設定されたシフト幅でシフトします。“無表示”はシフトしません。

(シフトした周波数がアマチュアバンドを逸脱する場合はシフトしません。)

トーン切替

[F]キーを押して“F”表示が点灯中に[TONE]キーを押すと“TONE”表示が点灯して初期設定されたトーンが送信されます。繰り返し押すと“TONE”表示が消えてトーンは送信されません。



レピーター運用のしかた[PCS-550-28 の場合]

レピーター運用する為には、トーンエンコーダー88.5Hz と-100kHz シフトの設定が必要です。(音声デジピーターの場合は、シフトさせず送受同じ周波数にします。)

・ダイレクトモードで運用する場合

初期設定でトーンエンコーダーの設定トーンコード“62”(88.5Hz)に設定し、シフト幅を100kHz に設定します。(シフト幅は初期設定で100kHz にしてあります) 運用時に、シフト切り替えを“-”に、トーンも ON にします。

・メモリーモードで運用する場合使用するメモリーチャンネルに

受信周波数
トーンデコーダー……“00”(初期設定は“00”になっています)
送信周波数………受信周波数の-100kHz
トーンエンコーダー…トーンコード“62”(88.5Hz の場合)

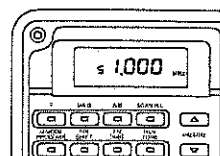
の順でメモリーします。運用時には、このチャンネルを呼び出すと、受信周波数と共に TONE,DUP が表示され、トーン及びシフトが動作することが表示されます。(■メモリーチャンネルの使い方、書き込みを参照)

注意 レピーターの周波数やトーン周波数は、レピーターマップ等を参考にして設定、運用して下さい。

■ テンポラリーメモリー

テンポラリーメモリーは A・B バンク 20 チャンネルのほかに一時的にメモリーし、呼び出すことができるメモリーです。

- 書き込み・・・ダイレクトモードの時に[F]キーを押してから[T.M]キーを押すと、表示中の周波数がメモリーされます。
- 呼び出し・・・メモリーモードの時に[T.M]キーを押すと、“メモリーCH”および“M.MODE”の表示が消えて呼び出します。アップ・ダウンさせるとその周波数からダイレクトモードに移ります。



テンポラリー

■ スキャン

・ プログラムブルスキャン

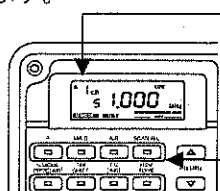
指定バンクのメモリー8チャンネルと9チャンネルの間をスキャンします。A-B バンクを設定した場合は、Aバンクの8⇄9チャンネル続いて、Bバンクの8⇄9チャンネルの間をスキャンします。

ダイレクトモード(“M. MODE”表示がない状態)にしてから[SCAN]キーを押すと、初期設定のステップ幅でスキャンを開始し、信号が入りスケルチが開くと“BUSY”表示が点灯して設定モードにより一時停止します。

・ メモリスキャン

A・B バンクまたは A-B バンクの指定によりメモリーチャンネルをスキャンします。

メモリーモード(“M.MODE”表示している時)にしてから[SCAN]キーを押すとスキャンを開始し、信号が入ると“BUSY”表示が点灯して設定モードにより一時停止します。



スキャン表示

スキャン

・ スキャン解除

スキャン中に、PTT スイッチを押すか[▼][▲]または[F]キーを押すとスキャンは解除されます。(PTT スイッチを押してもこの時は送信状態になりません。送信する場合は、もう一度 PTT を押しなおしてください。)

・ スキャンモードの種類

スキャンモードは三種類あります。

- ・ディレイスキャン(信号を受けて停止後、6秒たつと再びスキャンを開始)
- ・ホールドスキャン(信号を受けて停止後、信号が無くなって約3秒後に再びスキャンを開始)
(信号を受けて停止後、信号が無くなって約6秒後に再びスキャンを開始)

設定がホールドスキャン中は、“HOLD”表示が点灯します。

※設定方法については、初期設定の項を参照して下さい。

※信号の有無は、スケルチ開閉状態と連動しています。

■ プライオリティー

[PRI]キーを押すと“PRI”表示が点灯して、約 4 秒後に 1 回メモリーバンク0チャンネル(MA0)の入感状態を監視して、信号が入るとピッ音が鳴って知らせます。

プライオリティー表示



■ リバース

“DUP”および“+”“-”表示が点灯中[REV]キーを押すと“REV”表示が点灯して、受信周波数と送信周波数が逆になります。

リバース表示



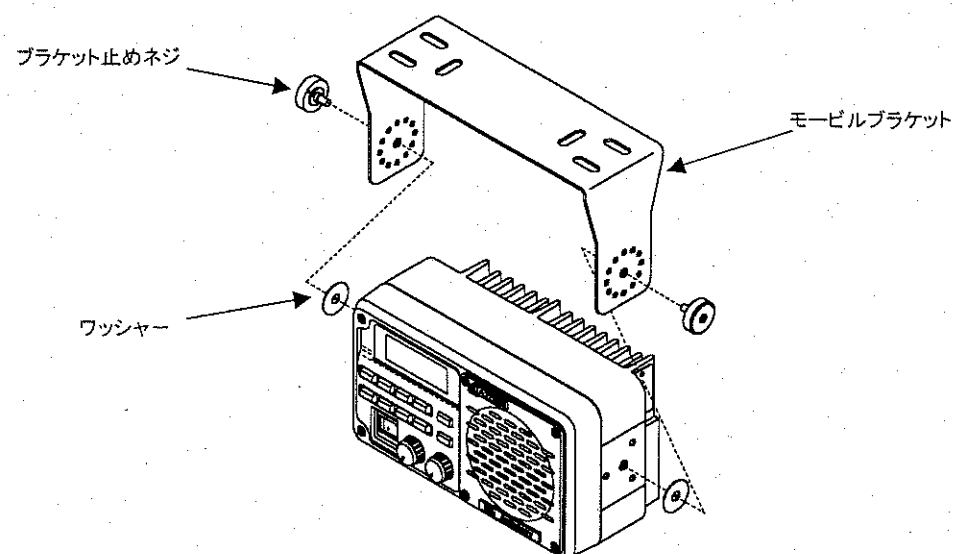
■ バックアップバッテリー

リチウム電池(CR-2032)でマイコンのメモリーを保持しています。

POWER スイッチを入れた時、以前メモリーした周波数が消えているようでしたらリチウム電池の寿命(5 年)です。販売店または当社サービス部で電池の交換をして下さい。(有料)

モバイルブラケットの取付図

- ・湿気や熱気の少ないところで、運転の妨害にならない位置に取り付けてください。
- ・連続送信をすると後部ヒートシンクは高温になります。通風の良い所に取り付けてください。
- ・後部から出ている電源コードの赤色には+側を、黒色には-側を接続してください。



■ アフターサービス

- ・保証書は必ず所定事項の記入及び記載内容を確認のうえ大切に保管して下さい。
 - ・保障期間は1カ年です。
- 正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合は、製品に保証書を添えてご購入店または当社サービス部までご相談下さい、保障規定に基づき修理いたします。
- アフターサービスのお問い合わせは・・・アツデン(株) 営業部

東京都三鷹市上連雀1-12-17

TEL 0422-55-5115

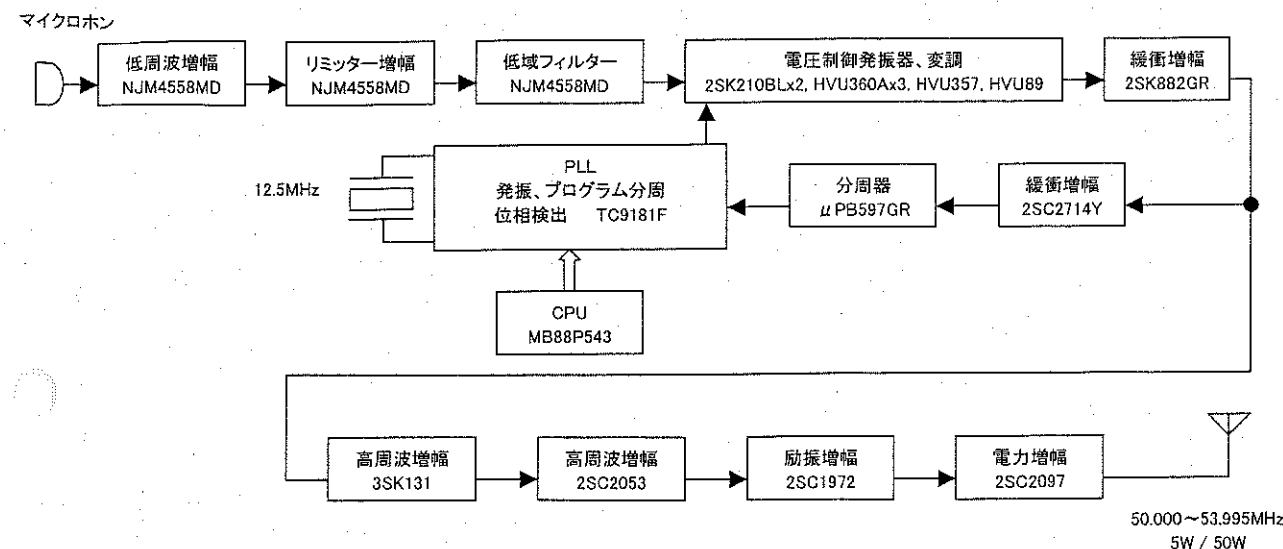
FAX 0422-55-0131

■ 無線局申請書(工事設計書)記入事項

機種名	PCS-550-50	PCS-550-28
技術基準適合証明番号		
発射可能な電波の形式 周波数の範囲	F3 50MHz 帯	F3 28MHz 帯
変調方式	リアクタンス変調	リアクタンス変調
定格出力	50W	50W
終 段 管	名称個数	2SC2097 × 1
	電圧	13.8V

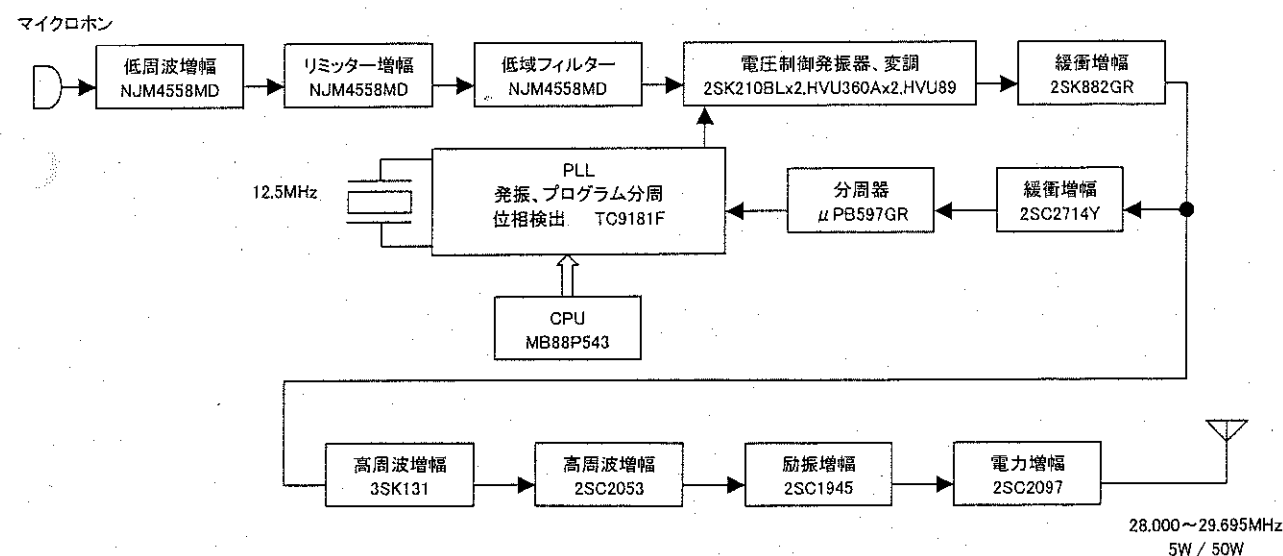
送信機系統図

PCS-550-50



送信機系統図

PCS-550-28



アツデン 株式会社

本社 〒181-8533 東京都三鷹市上連雀1丁目12番17号

営業部 TEL 0422-55-5115 FAX 0422-55-0131

<http://www.azden.co.jp> e-mail: sales@azden.co.jp

PRINTED IN JAPAN
80-24600-01